

3. 用語解説

【FD（ファカルティ・ディベロップメント）】

教員が授業内容・方法を改善し、教育力を向上させるための組織的な取組の総称。その意味するところは極めて広範にわたるが、具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げることができる。

【外部評価／第三者評価】

外部評価は、学校の教育活動等について、学校側が選定する学外者から評価を受けること。一方、第三者評価は、第三者的立場にある評価機関等が実施する評価のこと。

【科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金）】

学術を振興し、独創的・先駆的な研究を発展させることを目的として人文・社会科学から自然科学に至るあらゆる分野の学術研究活動を対象に助成される仕組み。通称、「科研費」と呼ばれる。我が国最大規模の競争的研究資金制度である。独立行政法人日本学術振興会における基金（学術研究助成基金）及び国の補助金（科学研究費補助金）により助成される。公募制となっており、各研究者が提出する研究計画書に基づき、ピア・レビューによる審査が行われる。

【サバティカル制度】

教員が、専門分野に関する能力向上のため、一定期間、管理運営業務等を免除され、異なる機関等において教育研究に専念することができる制度。

【GPA制度】

授業科目ごとの成績評価に対して、GP（グレードポイント）を付し（例えば、5段階（A、B、C、D、E）の成績評価に対して、それぞれ4、3、2、1、0のGPを付す。）、この単位当たりの平均を出し、その一定水準を卒業などの要件とする制度。GPAは、Grade Point Averageの略。

【JABEE（日本技術者教育認定機構）】

技術系学協会と密接に連携しながら、大学など高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかの審査・認定を行う非政府団体。

【シラバス】

各授業科目の詳細な授業計画。一般に、大学の授業名、担当教員名、講義目的、各回ごとの授業内容、成績評価方法・基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記載されており、学生が各授業科目の準備学習等を進めるための基本となるもの。また、学生が講義の履修を決める際の資料となるとともに、教員相互の授業内容の調整、学生による授業評価等にも使われる。

【セメスター制／クォーター制】

ひとつの授業を1年間通じて実施する通年制における前期・後期の区分とは異なり、ひとつの授業を学期（セメスター）ごとに完結させる制度。日本の多くの大学で、1年を2学期に分けるセメスター制が導入されている。また、一部の大学では、海外大学の学事暦に対応するなどの目的で、1年間を4つの学期

に分けたクォーター制が採用されている。

【中期計画】

国立大学法人等が、文部科学大臣が示す中期目標を達成するために作成する計画。中期計画を作成若しくは作成した中期計画に変更を加える場合には、文部科学大臣の認可を受けなければならない。公立大学法人については、設立地方公共団体の長が指示する中期目標を達成するために当該公立大学法人が作成しており、計画の作成又は変更に当たっては、設立地方公共団体の長の認可を受けなければならない。

【中期目標】

国立大学法人等が6年間で達成すべき業務運営に関する目標。文部科学大臣は、当該国立大学法人等に示すとともに公表している。公立大学法人については、6年間の中期目標を設立地方公共団体の長が当該公立大学法人に指示するとともに公表している。

【チューター制度】

主として、外国人留学生に対し、日本人学生が日本語の指導、学習や生活上の様々な支援を行う制度。

【テニュア・トラック制】

教員組織の活動の活性化を図るための措置として、若手研究者が自立した研究者としての経験を一定期間積んだ上で厳格な審査を実施し、その間の業績や教員・研究者としての資質・能力が高いと認められた場合に、任期を付さない職を与える仕組み。